

平成 29 年度（2017 年度） 梅花中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

- (1) 建学の精神に従い、キリスト教主義のもと、他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性を育成する。
- (2) 多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ女性を育てる。
- (3) のびやかな感性を養い、調和のとれた知性を持って社会に適合し、社会に貢献できる女性を育てる。

2. 中間的目標

- 1、生徒指導充実のため、更なる教員のスキルアップ
 - (1) 全校生徒を対象、学校評価アンケートの実施
 - (2) 新人教員育成制度の導入
 - (3) 大学入試改革を控え、生徒へ自ら学ぶ姿勢を身につけさせると共に、英語 4 技能の修得と国際理解を深める。
- 2、ICT 教育・アクティブラーニング(AL)を取り入れた授業の推進
 - (1) ICT 機材を用いた授業研究の推進
 - (2) AL を取り入れた授業研究の推進
- 3、危機管理の徹底
 - (1) 火災・防災訓練の強化
 - (2) 災害時の危機管理マニュアルの充実・見直し
- 4、カウンセリング体制の強化
 - (1) スクールカウンセラーとの連携強化
 - (2) 不登校生徒への対応の強化
- 5、財務状況の共有化
 - (1) 財務説明会の実施
 - (2) コスト意識の改善

3. 学校評価の結果と分析

【生徒による学校評価の結果・分析】

各教科担当およびクラス担任に関して 4 段階（そう思う(4 点)・だいたいそう思う(3 点)・あまり思わない(2 点)・思わない(1 点)) でアンケートに回答を求めた。各項目別に中学・高校の平均値を算出し、評価とした。

普通教科・実習教科については中学高校ともほぼ昨年同様の結果となった。項目ごとでは、生徒への公平な接し方、言葉遣いや振る舞い、教室への移動、小テストや課題の評価、朝の礼拝指導など基本的な行動については今年度も良い評価であったが、興味がわく工夫や要望を取り入れた授業改善については厳しい評価を全体では受けている。

担任に対する評価については、高校は昨年とほぼ同様の結果であった。中学では昨年、評価が大幅に上昇したが、今年度は少し評価が下がり例年並みとなっている。今後はよりきめ細かく対応する事をしていきたい。また、「建学の精神」や「スクールモットー」に触れる機会が少ないと中学高校とも感じている事が分かった。私学の根幹に関わる事柄であり今後工夫が必要である。また、個々の担当者の結果には差が見られ、低い場合には個別に面談を実施し改善点を確認する。

【専任教員による自己評価の結果・分析】

今年度から、教育内容に「主体的・対話的で深い学び」に関する項目、および ICT 機材の活用に関する項目の 2 項目を新たに設定し、学校運営 15 項目・教育内容 16 項目・生徒指導支援 6 項目・教員研修資質向上 5 項目をについてアンケート調査を実施した。項目ごとに、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：まったくあてはまらない」の 4 段階で自己評価を行った。集計は、それぞれの評価を、A を 4 点、B を 3 点、C を 2 点、D を 1 点として、各項目の得点の平均値を算出した。また、A～D の頻度を回答合計数に対する割合 (%) で示し、重点課題の評価指標とした。集計結果から前回調査以後、改善された点、対応が必要な点などを洗い出し、今後の改善目標を明らかにした。

全項目の平均値は 2016 年度 2.729、2017 年度 2.817、2018 年度前半 2.876 となり 2 年連続で改善が見られた。平均値が高い観点項目は、「教育課程」、「情報公開」、「危機管理」、「教育内容のその他（読書推進、部活動、学校行事、スポーツ芸術文化、国際理解）」、「生徒指導」があげられる。直接生徒の教育活動に関わる部分での評価が高い。逆に評価が低かった観点は、「財務関係」、「教員研修」があげられる。指導要領の改訂を控え、研修に参加する教員が多くなる中、研修結果を共有する機会を増やすことで、生徒への教育活動がさらに活発になると考えられる事から、昨年度に引き続き今後の重点課題としたい。今年度から加えた「主体的・対話的で深い学び」に関する項目、および ICT 機材の活用に関する項目は、どちらも平均値に近い評価であり、新指導要領の導入に向けこれらの項目も重点課題として充実を図りたい。

昨年からの比較では、評価が向上した項目は、昨年と同じく 40 項目中 28 項目あった。特に大きく改善が見られた項目は、他の項目と比較して評価が低く重点課題にあげた「教員研修」の教員間の授業内容の評価や効果的な校内研修の立案、研修成果の共有の各項目、「教職員連携」の教員・教科間の連携、教育内容の情報モラルとボランティア活動の項目があげられる。新しく取り組む e ポートフォリオやプログラミング教育のため多くの研修を開催したこと、数多く発生した自然災害に対して街頭募金を積極的に実施したことなどが評価を高めたと考えられる。また、逆に降下したものは、「私学の独自性」の愛校心について、また「教員研修」の新任者のサポートがあげられる。今後改善のための取り組みが必要と考えられる。

4. 学校関係者評価委員会からの意見 平成 30 年 10 月 22 日実施

(委員) 校長・副校長・PTA 会長・地域郵便局長・学園監事・学園評議員(総務部長)

【平成 29・30 年度実施の生徒評価について】

- ・昨年度から少しずつ評価がよくなっている事は良いことだ。
- ・「資料や映像を使って工夫している」項目が少しまだ足りていないのではないかと。
- ・「公平に接している」という項目の評価が高い事は素晴らしい。
- ・「建学の精神」に関する項目の評価が低いことが気になる。

【平成 29・30 年度実施の教員自己評価について】

- ・「教員の連携」について評価が高くなり良いことだと思う。評価が高くなった取り組みがあるのか。
- ・アクティブラーニングは大変難しいと思う。対話的に学ばせるには、先生の力量が相当必要だと思う。
- ・国際理解に対して評価が高い事は良い。梅花の特色があらわれている。
- ・行事に関する評価が上がっている。生徒のパワーを感じる。印象も良くなって良いことだと思う。
- ・財務状況を知らずにいるのは残念だ。公開しているが、理解がないのは関心がないからだろうか。
- ・進路指導に関する評価が少し上がっている。梅花女子大へ学内進学する生徒が増え、進路に対し安定感がある。

【本年度の取り組み内容および自己評価】

中間的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み 計画・内容	評価指標・進捗	自己評価
1. 生徒指導の充実	(1)教員間の授業参観を推進する。 (2)新人教員育成制度の導入を検討・実施 (3) 英語 4 技能の修得と国際理解を深める	(1)授業参観期間を設定し、レポートの提出を義務化することで授業改善を促す。 (2)新人教員にアドバイザー教員を配置し、授業・生徒指導等でレポートを作成し育成をはかる。新人教員を対象とした教員研修を実施する。 (3)課外活動として英語を学ぶ機会（外部講師での英会話・英検対策講座、TOEFL 受験対策講座）を増加させる。また、イングリッシュチャーターを日常的に実践出来る場を作る。イングリッシュオンリースペースの利用を促進させる。	(1)教員による自己評価アンケート（以後自己評価）教員研修「教員間で授業内容を評価、意見交換を行う機会がある」の肯定的評価を 75%以上にする。 (2)新人教員の相談をベテラン教員がアドバイザーする研修会を実施した。自己評価・教員研修「初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。」の肯定的評価を 70%以上に保つ。 (3) 自己評価・教育内容「他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。」の肯定的評価を 85%以上に保つ。	(1)2017 年度 51.3% 2018 年度前半 66.6% (△) 昨年度比 15%増であるが継続し、授業参観の回数を増やすことで充実を図る。 (2)2017 年度 50.0% 2018 年度前半 44.4% (×) 指導回数や計画的な研修・懇談の導入など改善し、継続して取り組む。 (3)2017 年度 82.0% 2018 年度前半 88.8% (○) イングリッシュオンリースペースの活用法の工夫など、英語に触れる機会を増やす取り組みを継続して実施する。
2. ICT 教育の推進	(1)ICT 機材を用いた授業研究の推進 ・ ICT 環境の整備 (2)アクティブラーニング（AL）を取り入れた授業研究の推進	(1)プロジェクトチームを結成し、委員が中心に情報収集・校外研修に参加する ・電子黒板機能付プロジェクター、ホワイトボードを備えた教室を増やす。 (2)教員研修を実施し AL について学ぶ。校内で研究授業を実施し全教員への普及を図る。	(1)プロジェクトメンバーが ICT を用いた研究授業を実施。他の教員が授業レポートを作成しメンバーで共有した。 2018 年度から加えた項目「ICT 教材を活用した教育が活発に行われている」の肯定的評価 70%以上を目指す。 ・2017 年度末、全ホールムへの設置を段階的に進める。 (2)外部講師を招き AL に関して校内研修を実施した。教科で 1 名以上の教員で研究授業を実施した。 2018 年度から加えた項目「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニングの視点に立つ学び）に向けた教育を行っている」の肯定的評価 70%以上を目指す。	(1)2018 年前半 69.8% (○) 授業での効果的な活用をめざし重点項目として継続する。 ・2017 年度 27 教室に設置し、ホールム教室全教室に設置が完了した。(○) (2)2018 年前半 63.4% (△) 授業での効果的な活用をめざし重点項目として継続する。
3. 危機管理の徹底	(1)火災・防災訓練の強化 (2)不審者への対応マニュアルの改訂 (3)災害への対応マニュアルを設定	(1)年 2 回の訓練を、学期ごとに 1 回年間 3 回実施する。 (2)校務分掌の変更など整理し、現行の対応マニュアルの見直しを実施する。マニュアルを教職員で共有化し対応できるような訓練等を実施する。 (3)事故対応マニュアルを教職員で共有化し対応できるような訓練等を実施	(1)今年度 3 回実施できた。自己評価・危機管理「事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。」の肯定的評価を 80%以上に保つ。 (2)2017 年 9 月改訂を行い。教職員へ告知した。自己評価・危機管理「危機管理マニュアル、警察、消防と連携、訓練など学校の安全対策は十分取られている。」の肯定的評価を 80%以上に保つ。 (3)豊中キャンパス中学・高校で 2017 年 9 月、事故対応マニュアルを新規策定。教職員へ告知した。評価指標は上記(2)と同様	(1)2017 年度 87.2% 2018 年度前半 84.4% (○) 継続して取り組む (2)(3)2017 年度 94.9% 2018 年度前半 82.8% (○) 継続して取り組む 今後(2)(3)を合わせて危機管理マニュアルとし、訓練や見直しを継続的に実施することで生徒教職員の安全確保を万全にしていく。

<p>4.カ ウンセ リング 強化</p>	<p>(1)カウンセラーとの連携強化 (2)不登校生徒への対応強化</p>	<p>(1)カウンセラーと教員との懇談を定期的に実施する。 (2)別室登校の制度を確立し、対応の教員を配置することで、不登校生徒のクラスへの復帰をサポートする。</p>	<p>(1)カウンセラーを含め特別支援委員会を月1回、定期開催し、支援が必要な生徒の把握および対応方法が教員間で共有できた。 自己評価・生徒支援「カウンセリングマインド」を取り入れた支援体制がある。カウンセラーの活用が出来ている。」の肯定的評価を80%以上に保つ。 (2)不登校生徒に対し、2017年から別室を設置し、コーディネーター教員を配置した。 評価指標は上記(1)と同様とする。</p>	<p>(1)(2)体制が整い、生徒支援が進んだ。 2017年度 86.5% 2018年度前半 83.7% (○) 継続して取り組む 今後は、不登校生徒への対応強化へ繋げていく。</p>
<p>5.財 務状況 の共有 化</p>	<p>(1)財務説明会の実施 (2)コスト意識の改善</p>	<p>(1)職員会議での財務説明会を実施する。 (2)職員会議等でコストに対する意識付けを喚起する。 ・節電 ・蛍光灯からLEDへの入れ替え</p>	<p>(1)職員会議で財務状況に触れる報告を心掛けた。 自己評価・財務関係「学校の経営指標と財務状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。 (2)節電のための食堂使用時間を見直した。 校舎内階段、および渡り廊下の照明を一部LED化した。また、体育館の照明もLED化した。 自己評価・財務関係「予算、決算の収支の状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。</p>	<p>(1)2017年度 33.3% 2018年度前半 23.3% (×) 継続して取り組む (2)2017年度 28.2% 2018年度前半 22.8% (×) 継続して取り組む 継続して重点項目とする。</p>